

# ⑥ 徳川家康

☆小学校六年 二学期実施

## 主題 失敗を生かして

A (3) 節度、節制

### 一 醸成したいおかげの心

戦に負けた自分の姿を絵に描いた徳川家康から学ぶ、自らの言動を反省する心

### 二 教材 「しかみ像」

『岡崎市現職研修委員会道徳部自作資料』

戦国時代、各地に勢力を広げていた徳川家康は浜松城にいました。家康と同じく天下取りをねらっていた武田信玄は京都に向かうため、無断で家康の領地を通ろうとしました。腹を立てた家康は、家来たちの反対を押し切り、戦を始めます。案の定、戦いに敗れ、多くの家来たちを犠牲にした家康は、情けない自分の姿を絵にかかせて、自らを戒めることを考えました。

### 三 本時のねらい

- (1) 勝ち目のない戦を強引に行った家康が、敗戦したことで我に返り、自らの過ちを反省した気持ちに気付かせる。
- (2) 常に言動を振り返ることの大切さを理解させ、軽はずみな言動を慎もうとする気持ちを高める。

### 四 発問例

(導入) 「軽はずみな行動をして失敗した経験はありますか。」

発問① 「どうして家康は三方ヶ原へ出陣すると決めたのでしょうか。」

- ・絶対に勝てると思ったから
- ・黙って見ているだけでは情けないから
- ・弱気になったら勝てる戦も勝てないと思ったから

発問② 『生き残って後のことを考えねばなりません』と言われたとき、家康はどんな気持ちだったでしょう。」

- ・ここで逃げたら弱虫と思われる
- ・生き残ることも大切かもしれない
- ・逃げ帰ったら、家来に合わせる顔がない
- ・逃げるなら死んだ方がましだ

発問③ 「どうして家康は自分の情けない姿をわざわざ絵師にかかせたのでしょうか。」(中心発問)

- ・情けない自分の姿をこれからも忘れないようにしようと思ったから
- ・無茶なことや同じ失敗を二度としないように気をつけようと思ったから

(自覚) 「軽はずみな行動を起こさないようにするために、あなたはどんなことに気をつけて生活したいですか。」

- ・ゲームを始めるとだらだら長引いてしまうので時間を決めてやりたい
- ・友達にらんぼうな言葉づかいをいついてしてしまうので冷静に声話せるようにしたい